

東京国立 博物館 ニュース

第705号
展示と催し物
案内

2011

23

月号

2-3 ◎ 特別展「仏教伝来の道 平山郁夫と文化財保護」

4 ◎ 特別展「写楽」

5 ◎ リニューアルオープン 工芸展示の鑑賞ポイント

6-10 ◎ 総合文化展みどころ案内 2011年2月・3月

日本美術の流れ／特集陳列「おひなさまと日本の人形」

特集陳列「東京国立博物館コレクションの保存と修理」

国宝 虚空蔵菩薩像／重文 十一面観音菩薩立像 ほか

11 ◎ 博物館でお花見を

12-13 ◎ みどりのライオン 教育普及事業

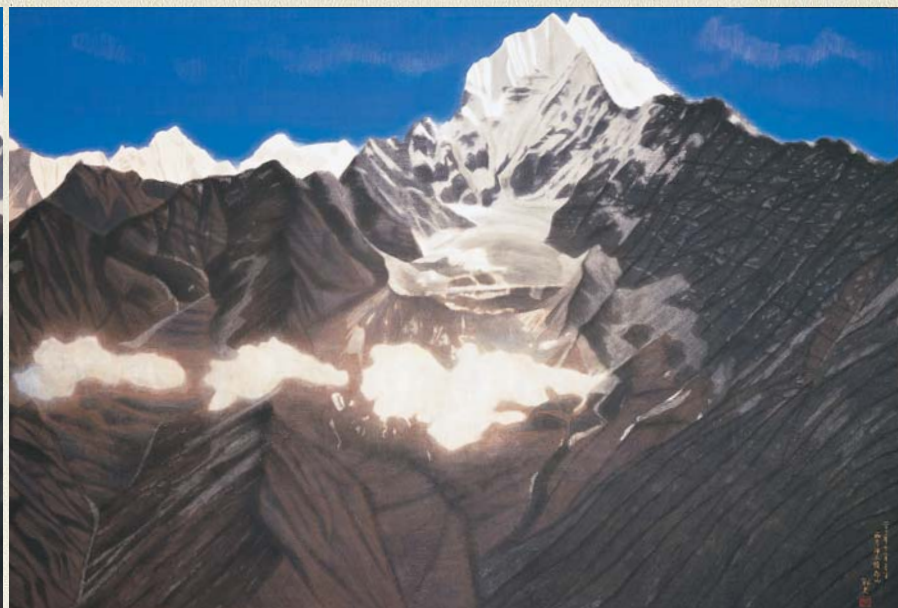
講演会／ワークショップ／制作工程模型 ほか

東洋館リニューアルオープンへの道

14 ◎ INFORMATION 15 ◎ TOPICS

16 ◎ 2011年2月・3月の展示・催し物



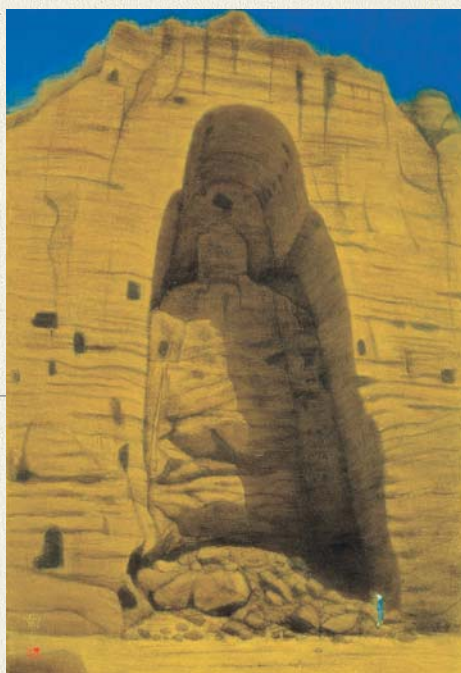


特別展 文化財保護法制定60周年記念

仏教伝来の道

平山郁夫と文化財保護

平山郁夫氏の文化財保護と平和への祈りをキーワードに、展覧会の主な作品をご紹介します。



図①「破壊されたバーミアン大石仏」
平山郁夫筆 2003年 平山郁夫美術館蔵
破壊された大仏に対する平山氏の痛切な思いがあふれている

平山郁夫とアフガニスタン

平山郁夫氏の文化財保護活動の中でも、アフガニスタンに対する思いは格別のものがあつたようです。アフガニスタンには、平山氏が深い共感を寄せた玄奘三蔵の求法の旅をしのぶ仏教遺跡が数多く残されていたのです。

その代表が、バーミヤンの大仏でした。平山氏は、昭和四十三年（一九六八）以来、幾度かこの地を訪問しながら、しばしばその姿を描くとともに、激しさを増す内戦によって存亡の危機を迎えたアフガニスタンの文化財を保護すべく、ユネスコや各国政府を通じて、国際的な保護運動を展開しました。

関連事業

◆記念講演会

2月19日（土）13時30分～15時

「仏教伝来の道をたどる」

松本伸之（東京国立博物館学芸企画部長）

会場…平成館大講堂

定員…380名（事前申込制。応募者多数の場合は抽選）、聴講無料（ただし、本展覧会の観覧券が必要。半券でも可、その場合は別途、入館料が必要）

申込方法…往復はがきの「往信用裏面」に郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、電話番号、聴講を希望する日付（2月19日）を

「返信用表面」に郵便番号、住所、氏名を明記の上、左記までお申し込みください。

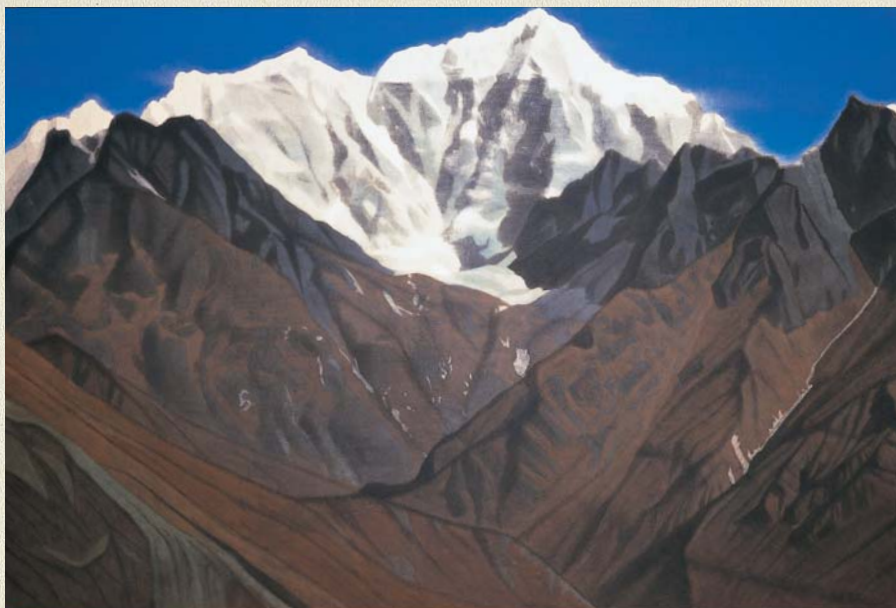
※1枚の往復はがきで1回の講演会に最大2名様までの申し込み可。2名の場合はそれぞれの氏名を必ず明記。

申込先…〒100-8662 郵便事業株式会社銀座支店私書箱644号（LX）

「仏教伝来の道 平山郁夫と文化財保護」事務局講演会（2月19日（土）係

申込締切…2月1日（火）必着

仏教伝来の道 平山郁夫と文化財保護



図③「西方浄土須弥山」平山郁夫筆 2000年 薬師寺蔵
ヒマラヤ山脈をモデルとし、「大唐西域壁画」の本尊に位置づけられる

特別展
「仏教伝来の道 平山郁夫と文化財保護」
1月18日(火)～3月6日(日) 平成館

主催：東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社 後援：外務省、文化庁 特別協力：平山郁夫シルクロード美術館、法相宗大本山薬師寺 協賛：大日本印刷 協力：文化遺産国際協力コンソーシアム、東京美術倶楽部、朝日生命保険、あいおいニッセイ同和損害保険
観覧料金：一般1,500円(1,300円/1,200円)、大学生1,200円(1,000円/900円)、高校生900円(700円/600円)
※()内は前売り/20名以上の団体料金。中学生以下無料
※障害者とその介護者1名は無料。入館の際に、障害者手帳などをご提示ください。

お問い合わせ：ハローダイヤル 03-5777-8600

展覧会ホームページ：

<http://www.asahi.com/hirayama/> (朝日新聞社)

<http://www.nhk.or.jp/event/hirayama/> (NHK)

図② 仏伝図「カーシャバ兄弟の仏礼拝」

2～3世紀 アフガニスタン・カピサ地方
流出文化財保護日本委員会保管(原力館・国立博物館)
かつてのアフガニスタンでの仏教文化隆盛を物語る



「大唐西域壁画」に寄せて

二〇〇〇年の大晦日の夜、大作「大唐西域壁画」が薬師寺玄奘三蔵院に奉納されました。常に世界の平和を願い、玄奘三蔵の求法の旅に共鳴し

ところが、そうした平山氏の献身的な努力も空しく、二〇〇一年(平成十四)タリバーン政権によって、ついにバーミヤンの大仏は跡形もないほど破壊されてしまいました(図①)。ここでも、平山氏は、癒しようのない衝撃を胸の内に抱きながら、「流出文化財保護日本委員会」を設置し、アフガニスタンから国外へ流出する文化財の保護に取り組みしました。その結果、「文化財難民」として保護されたものは合計二三八点にのぼります。今回展示されているアフガニスタンの石彫(図②)や壁画も、その一部にほかなりません。

た、平山氏のそれまでの活動の集大成ともいえるものです。「明けゆく長安大雁塔」嘉峪関を行く「高昌故城」「西方浄土須弥山」(図③)「バーミアン石窟」「デカン高原の夕べ」「ナラランダの月」という七場面からなるこの壁画は、玄奘三蔵の旅をなぞって東から西へと展開し、インドの聖地を経て終わります。同時に、日の出から月夜まで、壁画全体で一日の時間の経過を追うようにも構成されています。そこには、玄奘の求法の旅と重ね合わせて、人と自然とが調和し、時間と空間とが一体となった、いわば理想郷の姿が象徴されているかのようです。

バーミヤンの大仏が破壊されたのは、この壁画が奉納されてから三カ月後のことでした。(松本伸之)

◆講演会

「薬師寺僧侶が語る大唐西域壁画」

2月8日(火) 15時～15時45分

松久保秀胤・法相宗大本山薬師寺長老

2月22日(火) 15時～15時45分

山田法胤・法相宗大本山薬師寺管主

会場：平成館大講堂

定員：380名 聴講無料(ただし、本展覧会の観覧券が必要。半券でも可。その場合は別途、入館料が必要)

写楽

SHARAKU

二〇一一年春、写楽作品のほとんどすべてが揃う空前の大写楽展が開催されます。今回は、写楽作品鑑賞のためのウォーミングアップ。

代表作「江戸兵衛」を題材に、写楽の
大首絵の魅力の秘密を探ります。

写楽という名前をご存知の方は多いでしょう。そして、名前は不確かでも、この絵「三代目大谷鬼次の江戸兵衛」なら見たことがあるという人も、大勢いらつしやるのではないのでしょうか。印象に残る斬新さ、というよりも見る者をギョツとさせ迫ってくるような表現は力強く、我々の肖像画に對するイメージを超えています。

写楽が描いたのは、単なる肖像画ではなく、芝居をしている役者を描いたもの。外見的特徴だけでなく、芝居の場面、演じる役を通して役者を描いているのです。

江戸兵衛は、奴一平を襲って金を奪おうとする役。左からヌウツと登場し、いっぽいに広げた手を懐から出して右端まで顔を突き出す姿は、金を奪おうとする動きをはらんで異様な印象をいだかせ、黒雲母のバックが凄みをましています。

四月から始まる展覧会では、写楽が描いたほとんどの図が集まります。あの絵を描いた写楽をじかに感じていただける恰好の機会です。(田沢裕貴)

三代目大谷鬼次の江戸兵衛



上：初代市川男蔵の奴一平 寛政6年(1794)
フランス・ギメ東洋美術館蔵
ひるむ一平の表情が江戸兵衛と対比されます

左：三代目大谷鬼次の江戸兵衛 寛政6年(1794)
アメリカ・メトロポリタン美術館蔵
鬼次はこの年秋に中村仲蔵の名を襲名しました。最も脂の乗った時期でした



記念講演会

① 4月10日(日) 13時30分～15時
「美術史の中の写楽の役者絵」
田沢裕貴(東京国立博物館企画展室長)
② 4月24日(日) 13時30分～15時
「写楽の役者絵の成立事情を探る」
浅野秀剛(大和文華館長)

会場：平成館大講堂

定員：380名事前申込制 応募多数の場合抽選、聴講無料(ただし、本展覧会の観覧券が必要。半券でも可、その場合は別途、入館料が必要)

申込方法：往復はがきの「往信用裏面」に郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号・聴講を希望する講演会の番号(①または②)と日付を、「返信用表面」に郵便番号・住所・氏名を明記の上、左記までお申込みください。

※1枚のはがきで、1つの講演会につき最大2名の申込可。2名の場合は、それぞれの氏名を必ず明記。

※①3月25日(金)頃 ②4月8日(金)頃に「返信はがき」を送付予定。

申込先：〒106-0032 東京都港区六本木4-8-7 六本木三河台ビル 特別展「写楽」広報事務局講演会(①4月10日または②4月24日係)

申込締切：①3月15日(火) ②3月29日(火)必着

特別展「写楽」

4月5日(火)～5月15日(日) 平成館

主催：東京国立博物館、東京新聞、NHK、NHKプロモーション 協力：国際浮世絵学会 後援：文化庁 協賛：日本写真印刷、みずほ銀行、三井物産 輸送協力：日本航空

観覧料金：一般1,500円(1,300円/1,200円)、大学生1,200円(1,000円/900円)、高校生900円(700円/600円)

※()内は前売り/20名以上の団体料金。中学生以下無料 ※障害者とその介護者1名は無料。入館の際に、障害者手帳などをご提示ください。

お問い合わせ：ハローダイヤル 03-5777-8600

展覧会ホームページ：http://sharaku2011.jp

1月2日 リニューアルオープン！

本館1階 工芸展示の鑑賞のポイント教えます！

新しくなった工芸展示室から、各ジャンルの担当研究員が
見どころ＆展示室での楽しみ方をご紹介します

陶磁 ●本館13室

日本陶磁の流れ、
つかめます



自然釉大壺 越前 室町時代・15世紀
生活容器として焼かれた大壺ですが、堂々とした存在感をそなえています ＊3月13日(日)まで展示

日本の陶磁は、中国や朝鮮半島から伝えられた技術や意匠をもとに、日本独自の生活様式や美意識に根ざした翻案が加えられて展開しました。これまで、陶磁の展示室では、京焼と伊万里焼に代表される江戸時代の陶磁器、および安土桃山時代から江戸時代初期に隆盛した茶の湯の焼き物に絞って展示しておりましたが、リニューアル後は、日本で最初の本格的な施釉陶器である奈良三彩、平安時代の灰釉・緑釉陶器、常滑・越前といった中世陶器を加え、日本陶磁の流れを概観いたします。また、江戸時代後期に日本各地の窯場で花開いた陶磁器を順次ご紹介してゆきます。

(今井 敦)



ケースの外から作品に照明を当てているので、新しい12室に入ると作品だけが浮かび上がって見えます

刀剣 ●本館13室

刀剣は姿と刃文、
鐔はデザインに注目！

反りのある姿の日本刀は平安時代の中頃に完成し、江戸時代まで用いられました。刃を下にして腰に下げる太刀、刃を上にして袴の帯に指す刀、刀よりも短い脇指や短刀などの各種、各時代の作品を選んで、刀剣の歴史をご覧ください。刀身は姿や刃文、刃文以外の地鉄、茎の形や銘などに、時代や刀工の特徴があらわれていて、鑑賞のポイントとなっています。刀剣の柄や鞘などの外装に使われる刀装具には、鐔のほか、柄に付ける目貫、鞘に指し添える小柄や筭などがあります。金銀や銅の色を巧みに用いた、精緻な作品が生み出され、ほかの金工の作品にも大きな影響を与えました。



自在龍置物 明珍宗作
江戸時代・正徳3年(1713)
小さな鉄の部品を精密に組み合わせることで、迫真の表現と自由自在な動きを可能にした置物 ＊3月13日(日)まで展示

●太刀 銘 長光(名物 大般若長光)
鎌倉時代・13世紀
華やかな刃文を焼いた備前(岡山県)の長船長光の作品。信長、家康を経て忍藩(おしはん)(埼玉県)の松平家に伝来しました



極端に技巧にはしらぬ優美なかたちや表現、四季の景物や伝統的な幾何学文様をおりこんだ装飾、細部へのこだわりなどが特色です。この展示室では、これまで主に仏教用具を展示してきましたが、今後は生活調度や装飾具なども対象とし、より幅広く日本金工の諸相をご紹介します。

(伊藤信二)

金工 ●本館13室

仏具から装身具まで、金工の
いろいろお見せします

金工とは金属を素材として加工し作られた工芸品のことであり、またそれを加工するさまざまな技法の総称でもあります。日本の金工は、紀元前3世紀の弥生時代にはじまり、中国や朝鮮半島、近世以降は西欧の影響も受けながら、自国文化の成熟の中で、独自の展開をとげてきました。仏教や神道の信仰を背景とした積極的な生産、

漆工 ●本館12室

蒔絵と向き合う空間を
楽しんで

漆工の展示室では、日本で独自の発展をとげた漆芸装飾技法、「蒔絵」による作品を展示しています。



●舟橋蒔絵硯箱 本阿弥光悦作
江戸時代・17世紀
光悦独特の形の硯箱。豪華でありながら、簡潔な印象です ＊3月13日(日)まで展示

蒔絵は、漆で図柄を描き、そこへ金属の粉を蒔きつけて文様を表わす技法です。平安時代から江戸時代まで、各時代の蒔絵作品をご覧ください。その歴史の流れをたどるとともに、漆芸の美に親しんでいただく展示です。また今回12室には、新しい展示ケースを導入しています。鑑賞者と作品を隔てるものをできるだけ取り払いたいという思いから、ガラスだけでできているかのような展示ケースを制作しました。落ち着いた、ゆったりと作品をご覧ください。是非一度、蒔絵の名品とじっくり向き合ってください。

(竹内奈美子)



●硯箱 室町時代・16世紀
和歌を題材にした図柄を、蒔絵で精細に描いています ＊3月13日(日)まで展示

本館2階
日本美術の流れ
2-3月の
必見ガイド

鎌倉時代から江戸時代までに用いられた刀剣や甲冑などを展示します。

2月22日→5月15日

必見!

●白糸威鎧 鎌倉時代・14世紀
鳥根・日御碕神社蔵
鍬形をつけた兜に銅・袖がそろう14世紀の鎧の名品



4 茶の美術

日本の伝統文化である茶の湯のなかで育まれた美術を紹介します。

1月25日→4月17日

必見!

●魚屋茶碗 銘さわらび
朝鮮時代・16～17世紀
広田松繁氏寄贈
袖の景色を春の霞に見立てて「さわらび」と名付けられました



3-3 禅と水墨画
—鎌倉～室町

禅宗の本格的導入にともない成立した水墨画と墨跡をご覧ください。



1月2日→2月6日

必見!

●囲棋観瀑図屏風 伝狩野元信筆
室町時代・16世紀 増岡ツマ氏寄贈
雪景色の中、滝を眺める高士を描いた異色の作品です

2月8日→3月21日

必見!

●蜷子和尚図
可翁仁賀筆
南北朝時代・14世紀
背景と衣はおおまかに、顔や身体は丁寧に描く中国禅余画の手法が採られています



3-2 平安から室町までの貴族が支えた日本的美的世界。

1月2日→2月6日

必見!

●佐竹本三十六歌仙絵巻断簡(忠峯)
鎌倉時代・13世紀 原操氏寄贈
「古今和歌集」の撰者もつとめた壬生忠峯を描いています

2月8日→3月21日

必見!

●古今和歌集巻第十九断巻(高野切本)
伝紀貫之筆 平安時代・11世紀 森田竹華氏寄贈
「古今和歌集」最古の写本「高野切」を、この作品を含む2種展示します。洗練された美しいかなの連綿に注目

3月23日→5月8日

必見!

●扇面法華経冊子
平安時代・12世紀
装飾と下絵を描いた上に法華経を書写したもの。貴族的な美しい世界をお楽しみ下さい



3-1 仏教の美術
—平安～室町

絵画、彫刻、書跡など、日本仏教の多様で多彩な世界をご覧ください。

1月2日→2月6日

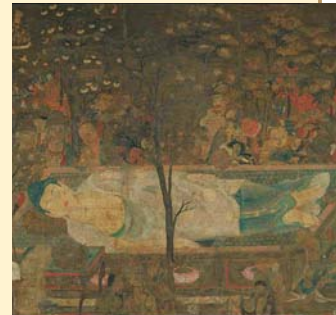
必見!

●金銅火焰宝珠形舍利容器
鎌倉時代・13世紀
仏舎利を釈迦とみなして蓮台をつけた舍利容器です。水晶の玉をくりぬいて中に仏舎利をおさめています

2月8日→3月21日

必見!

●仏涅槃図 平安時代・12世紀
釈迦の入滅を偲んで2月に行われる涅槃会の本尊



2 国宝室

絵画・書跡の名品をゆったりとした空間で心静かに鑑賞していただくための展示室です。

1月2日→2月6日

必見!

●秋冬山水図 雪舟等楊筆
室町時代・15世紀末～16世紀初
雪舟の代表作品を秋冬ともに展示

2月8日→3月21日

必見!

●虚空蔵菩薩像
平安時代・12世紀
宇宙のように無限の智慧や功德を蔵する菩薩

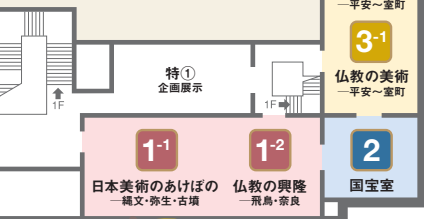
3月23日→4月17日

必見!

●花下游楽図屏風 狩野長信筆
安土桃山～江戸時代・17世紀



江戸時代まで、
たどる日本美術史



START!

1-1 日本美術のあけぼの
—縄文・弥生・古墳

日本美術の原点として縄文から古墳時代の代表作品を紹介します。

2010年11月16日→5月8日

人物壇輪に加えて、各時代の代表作品を取り上げます。



必見!

●金銅製香 熊本県和水町江田船山古墳出土 古墳時代・5～6世紀
全長34cmと大きく、豪華な装飾がつけられた死者のための香です

1-2 仏教の興隆
—飛鳥・奈良

飛鳥時代から奈良時代にかけての仏像や経典など、古代の仏教美術を紹介します。



1月2日→3月21日

必見!

●舍利容器 大阪府茨木市太田三島廃寺出土 奈良時代・8世紀
平野捨治郎氏・太田治三郎氏寄贈
石の容器の中に銅、銅の中に銀、銀の中に金。4重構造の舍利容器です

2月8日→3月21日

必見!

●釈迦如来坐像 奈良時代・8世紀 奈良・西大寺蔵

7 屏風と襖絵 —安土桃山・江戸



画面の作品から
生み出される空間の
広がりを感じ
とってください。

1月25日→3月6日

必見!

蘭亭曲水図屏風 与謝蕪村筆
江戸時代・明和3年(1766)
文人の風流高雅な交遊を爽やかな
色調であらわしています



3月8日→4月17日

必見!

◎西湖春景銭塘観潮図屏風
池大雅筆 江戸時代・18世紀
中国名勝の春を彩る色のハーモニー

5 6 武士の装い —平安～江戸

2010年11月30日→2月20日

必見!

◎黒韋包金桐文系巻太刀
室町時代・15世紀
鞘を黒韋で包んだ草包太刀の中でも、
金の金具をつけており豪華です



8-1 暮らしの調度 —安土桃山・江戸

安土桃山から江戸時代に
人々の身の回りを飾った
調度や器を展示します。

1月18日→4月17日

季節に合わせて、春にちなんだ
意匠の品々をご覧ください。



必見!

松竹梅鶴蒔絵料紙硯箱 江戸時代・
天保15年(1844) 湯島聖堂祝儀器 上杉憲章献納
まだ寒い2月、他の花に先駆けて咲き始める梅の花は、
早春の象徴です



必見!

色絵桜樹図皿 鍋島 江戸時代・18世紀
春爛漫と咲き誇る、桜の富貴な気分が表
現されています

8-2 書画の展開 —安土桃山・江戸

1月25日→3月6日

絵画では、7室とも連動して蘭亭序に関わる作品を、書跡は
徳川將軍家歴代にかかわる書や古文書を中心に展示。



必見!

◎松平忠輝黒印状
江戸時代・慶長16年(1611)
家康の六男松平忠輝は大名
となり、領地支配を展開しま
した。この古文書は自らの家
臣に安堵した知行(所領)の
目録です

必見! 蘭亭序・蘭亭曲水図屏風 東東洋筆
江戸時代・文政10年(1827) 東堂三氏寄贈
詩酒に興じる文人たちを画面の競演であらわしています

さまざまな表現で広がる豊かな
視覚文化の時代を体感してください。

3月8日→4月17日

必見!

十二ヶ月花鳥図屏風
狩野永敬筆
江戸時代・17世紀
屏風に揃った絢爛たる四季折々の動物植物



必見!

桜賦
佐久間象山筆
江戸時代・19世紀
会津秀雄氏寄贈
幕末の開国論者、
佐久間象山が、桜
花の美質に憂国の
志を託した詩

9 能と歌舞伎

室町時代～江戸時代
に用いられた能面・
能装束・歌舞伎衣装
などを紹介します。

2010年12月21日→

2月13日

【舞楽装束】

右方舞「貴徳」、「陪臚」に用
いられる装束や面、平舞の
装束などを展示します。



必見!

陪臚補襦 淡紅地
立涌桜模様錦
江戸時代・19世紀
動きのある武の舞に
は「補襦」と呼ばれる
袖なしの貫頭衣が用
いられます

2月15日→4月17日

【能「蘆刈」の面・装束】
夫婦愛を描いた能「蘆刈」
に用いられるような江戸時
代の面と装束を展示。

必見!

唐織 紅地七宝繫額模様
江戸時代・18世紀
一つ一つ異なる額のデザインは刺繍
ではなく、すべて織られた模様です

10 浮世絵と衣装 —江戸

【衣装】小袖や髪飾り、印籠や根付など
江戸時代のファッションに関する展示です。

2010年12月21日→2月13日

鳳凰・鶴亀・松竹梅など吉祥模様でお正月を迎えます。

2月15日→4月17日

春を知らせる梅や椿、春爛漫の桜にちなんだ
模様を中心に展示します。

【浮世絵】江戸時代の美人や風景を
描いた版画と肉筆の浮世絵を展示します。

1月18日→2月13日

雪景色や炬燵など冬の季節にちなんだ
作品で構成します。

2月15日→3月21日

雛祭と早春の風物を描いた作品を中心に
展示します。

3月23日→4月17日

桜を題材とした作品を中心に展示します。



必見!

見立鉢の木
鈴木春信筆 江戸時代・18世紀
空槽によって柔らかな雪が表現
されています(1/18～2/13)



必見!

名所江戸百景・亀戸梅屋舗
歌川広重筆 江戸時代・安政4年(1857)
ゴッホが模写したことで有名な図(2/15～3/21)



必見!

子寶五節遊・雛祭
鳥居清長筆 江戸時代・18世紀
雛人形を飾る楽しげな子ども
たち(2/15～3/21)

必見!

桜下馬乗り若衆
奥村政信筆 江戸時代・18世紀
物見窓から若衆を見る女性は何を
話しているのか(3/23～4/17)





本館14室 工芸

桃の節句の雛飾り
特集陳列

「おひなさまと日本の人形」

2月22日(火)～4月24日(日)

少女が人形や雛道具で遊ぶ姿は『源氏物語』にも描かれていますが、三月三日の桃の節句に女子の健やかな成長を祈って雛人形を飾る風習が

広まったのは江戸時代以降のことです。当館には、江戸時代中期から後期にかけて人々にいつくしまれてきた雛人形の数々が所蔵され、毎年、ひなまつりの季節にお飾りして皆様と共に桃の節句をお祝いいたします。



古今雛 江戸時代・19世紀
山本米子氏寄贈
江戸生まれの古今雛は面長美人

門雛、関東好みの古今雛をはじめ、今年は地方で育まれ愛された素朴な温かみのある雛人形を飾ることにしました。繊細な象牙細工が施された雛簾や長持もみどころです。また、江戸時代の風俗を映し出す情趣ある衣装人形も併せて展示いたします。

(小山弓弦葉)

本館16室 歴史資料

信長も聞いたキリシタン音楽
シリーズ「歴史を伝える」
特集陳列

「キリシタンの祈り——ミサとオラショ——」

3月15日(火)～4月24日(日)

日本がキリスト教を受け容れていた十六世紀中ごろ、織田信長が築いた安土城のお膝元と、キリシタン大名有馬氏の城下(現在の長崎県南島原市)に日本人聖職者を養成するセミナリヨが設けられました。人々はこうした施設や南蛮寺と呼ばれた教会で信仰を深め、西洋文化に触れたのです。

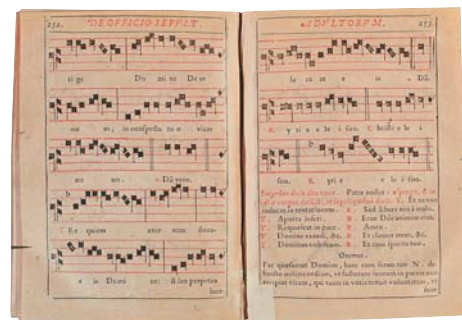
そこでは聖歌や西洋の楽器の演奏法も教授されました。ローマ教皇グレゴリウス13世に謁見した四名の日本

の少年たち、いわゆる「天正遣欧使節」が素晴らしいミサ曲を演奏して喝采を浴びたことはイエズス会の記録に残っています。

この特集陳列では織田信長や豊臣秀吉が耳にした西洋の音楽を、実際に聞いていただきます。その旋律、キリシタンの遺品を通して、キリスト教の信仰が日本に広がった様子をご覧ください。(神辺知加)



祈禱書 安土桃山～江戸時代・16～17世紀 片山直人氏寄贈
ラテン語の祈禱文を、平仮名を用いて忠実に写音したもの。皆川達夫氏によりグレゴリオ聖歌の旋律を導き出すことが可能だと判明しました



サクラメント提要 江戸時代・慶長10年(1605)
東京・上智大学キリシタン文庫蔵
カトリックの洗礼や婚礼の手引き。日本最古の活版印刷の楽譜としても知られています

本館19室 近代工芸

「技」を伝える努力
特集陳列

「伝統工芸

技の世界を探索——」

1月2日(日)～3月6日(日)

昭和二十五年(一九五〇)に制定された文化財保護法には、有形文化財だけでなく、無形文化財の保存と活用について図られています。有形文化財が絵画・彫刻・工芸品のような「物」を指すのに対し、無形文化財

は工芸技術や芸能など人間が体得して伝承する無形の「技」そのものを指します。そのような工芸技術によって制作された工芸品は、伝統的な生活様式や生活文化のなかで活用されたもので、明治維新以後の近代化のなかでもよく残されていました。しかし

ながら、第二次大戦後に生活様式や習慣が急激に変化するにもなつて、伝統的な工芸技術も急速に衰退しました。本特集では、そのような工芸技術を保護するにあたって、国が技術を伝える人たちに依頼して作成された技術記録を紹介いたします。(猪熊兼樹)



存星技術記録(存星獅子図食籠) 香川宗石(1891～1976)作 昭和28年(1953)
存星とは、漆で模様を描き、輪郭・細部を線彫りする漆芸の技法。その制作工程を段階的にしめた技術記録

文化財を守り伝えるために
特集陳列

「東京国立博物館コレクションの

保存と修理」

2月15日(火)～3月13日(日)

保存修復課では、貴重な文化遺産を未来へと永く伝えていくために、展示・収蔵環境を調査しつつ、毎年多くの作品修理を行っています。特集陳列「東京国立博物館コレクションの保存と修理」では、修理を終えてふたたび展示公開することができるようになった作品をご覧いただきます。二〇〇九年から二〇一〇年にかけて、二〇〇件近くの作品の本格的な修理を行っており、今回は、絵画、書跡、歴史資料、工芸、

考古の多岐にわたる分野から、選りすぐった二十件の作品を展示いたします。これらの修理の過程で明らかになった貴重な情報は、平常陳列では見ることでできないものです。展示室では、修理後の作品を披露するだけでなく、修理前の損傷状況や詳しい修理工程をパネルでわかりやすく紹介いたします。ぜひ、お楽しみください。(日高慎)



深鉢形土器 千葉県銚子市余山貝塚出土 縄文時代・前2000～前1000年
右：修理前 破片を接合し、欠失部をセメントや石膏で補修していました
左：修理後 欠失部を樹脂等で補填し直したことにより、作品全体の形状もすっきりし安全に取り扱うことができるようになりました
※保存と修理ツアーや列品解説など関連事業については本誌12ページをご覧ください。

平成館 企画展示室

北部九州独特の経塚遺品 特集陳列

「古代九州の経塚

―北部九州を中心に―

2010年12月7日(火)～

3月6日(日)

平安時代の中ごろ、近畿地方で造営が始まった経塚は、その後、九州から東北まで全国に広まってきました。なかでも北部九州は、古代において、畿内同様、多数の経塚が築かれた地



銅製宝塔形経筒 福岡県宇美町四王寺山経塚出土 平安時代・保安4年(1123)
透彫りの飾金具、ガラス小玉の瓔珞、銅製円板などで飾り立てた豪華な経筒

域としてよく知られています。北部九州には、四王寺山、宝満山、背振山など、山岳信仰で著名な山が多く、これらの山々には経塚も数多く築造されて、出土品には九州独特なものが見られます。今回は、北部九州を中心

とする九州の経塚の様相を、当館所蔵品と福岡市博物館の所蔵品でご覧いただきます。
なお、この特集陳列は、考古資料相互活用促進事業の一環として行われるものです (望月幹夫)

平成館 企画展示室

書道博物館と同テーマで開催
特集陳列

「拓本とその流転」

3月15日(火)～5月15日(日)

毎年恒例となった台東区立書道博物館との連携企画、今年度は中国の拓本を取り上げます。古代の中国では、簡便に複写をとる拓本の技法が考案されました。現存する最古の拓本は、敦煌の藏経洞で発見された唐時代の温泉銘ですが、拓本の起源はそれ以前に遡ると考えられます。しかし唐時代の拓本は、ごく僅かしか残されていません。
宋時代には、上質の紙や墨が製造されるようになり、拓本の技法も多様に



定武蘭亭序(独孤本)
王羲之筆 東晋時代・永和9年(353) 高島菊次郎氏寄贈
元時代の趙孟頫が13もの跋文を記した名拓。清時代に火災に遭い、翁方綱が李宗瀚に装丁させたものです
※台東区立書道博物館「拓本とその流転」
開催期間：3月15日(火)～5月15日(日)

なります。上等な拓本は、工芸意匠の粋を尽くした、えも言われぬ美しさがあり、収蔵家の垂涎の的となりました。本展は、名拓の数々とともに、拓本のたどった流転にも目をむけ、さまざまなエピソードを交えてご紹介します。この機会に、拓本の持つ魅力を存分にお楽しみください。(富田淳)

100年後の未来に
バトンタッチ!

保存と 修理情報 ③

茅葺屋根の管理は 昔ながらの竈の煙で

埼玉県所沢市にある柳瀬荘の黄林閣は、江戸時代の民家の特色をよく示す建造物として、重要文化財に指定されている茅葺屋根の屋敷です。茅葺屋根は放っておくと、茅の中に虫が巣くって茅を傷めるだけではなく、その虫を狙って鳥が上からつついて、茅を散らかしていきます。その結果、次第に雨漏りが広がって、最後には柱や



黄林閣の竈から立ち上る煙

壁を腐らせてしまいます。私たちは茅葺屋根の保存のために、昨年12月から竈を復活させ、定期的に煙で屋根裏を燻す実験を開始し、今年も12月9日に実施しました。(神庭信幸)
※柳瀬荘は、松永安左衛門氏(耳庵)の旧別荘で、毎週木曜日、無料で公開しています。(東武東上線志木駅、または西武新宿線所沢駅からバス。詳しくは当館ホームページをご覧ください)



本館11室 彫刻

一本のビヤクダンから作った仏像

重文十二面観音 菩薩立像

1月2日(日)～3月6日(日)

ビヤクダン製の像です。ビヤクダンはインド南部、東南アジアの一部にしかない貴重な木で、お香の材料にもなり、仏像の素材にふさわしいと考えられました。上瞼が大きくてインド風の顔ですが装身具や体の彫りから中国製とわかります。七世紀の唐(中国)では、インド風が流行していたのです。すべて一つの木から彫り出していて、垂れ下がって体から離れる装身具も接いでいけません。このような像を檀像と呼びます。八世紀後半の日本の木彫像に大きな影響を与えました。

(浅見龍介)



◎十二面観音菩薩立像(部分)
唐時代・7世紀 多武峰伝来
飛鳥時代に藤原鎌足の息子定恵が中国から持ち帰ったものと見る説があります

本館2室 国宝室

銀の輝きを想像して

国宝 虚空蔵菩薩像

2月8日(火)～3月21日(月)



◎虚空蔵菩薩像 平安時代・12世紀
名前の通り、茫漠とした空間を感じさせる見事な造形

天蓋や瓔珞、光背、菩薩を包む大きな円相、衣の文様、蓮華の花脈、岩座に刷いた暈、といった現在暗灰色に見える部分には銀が用いられています。制作当初は今とは違い、明るく爽やかな輝きが画面に満ちていたこととされます。

この画像の制作時期と考えられる十二世紀後半には、宮廷貴族の間でそれまでの金主体の感覚に対して、素材としての銀への関心が高まり、特に追善目的や女性に関わる仏事に際して銀製の仏像や作りものを制作した例が記録上知られています。この画像の制作目的については諸説あり詳しくは後述します。

くわかつてはいませんが、そうした新しい感覚を画像として高度に体現した作例ということができます。

(沖松健次郎)

本館7室 屏風と模絵・8室 書画の展開

王羲之への思い

「蘭亭序」にちなむ 書と絵画

1月25日(火)～3月6日(日)

蘭亭とはお酒で有名な中国の紹興の近くにある名所です。書聖と呼ばれた王羲之が中国・東晋の永和九年(三五三)三月三日、名士達とともにこの地で曲水の宴を開き、吟じた詩を文集にするため序文として記した草稿が「蘭亭序」です。しかしこの真筆は唐の太宗皇帝の陵墓に副葬され永遠に失われました。しかし時代や国を超え、後世その書を愛した文人によつて蘭亭序は模写され、かつての宴の模様は絵画作品のモチーフとして取り入れられます。今回は、与謝蕪村、松村景文、東東洋らが曲水の宴を描いた屏風や図巻、そして江戸時代の文人亀田鵬斎による書の内容を展示いたします。

この王羲之に対する思いを感じ取っていただければ幸いです。

(高梨真行)

蘭亭序・蘭亭曲水図屏風
(部分) 東東洋筆 江戸時代・文政10年(1827)
6曲1双 紙本墨書・紙本墨画
淡彩 東量三氏寄贈
名士たちの詩作姿に個性があり興味深い趣をかし出しています



本館10室 浮世絵と衣装―衣装

お姫様の華やかな振袖

小袖紅綸子地 桐樹鳳凰模様

2010年12月21日(火)～2月13日(日)



小袖紅綸子地桐樹鳳凰模様 江戸時代・18世紀
旧久留米藩士家伝来
鳳凰に桐樹の立木模様は、武家女性の晴着の典型的なデザイン

かつて久留米藩に仕えていた藩士の旧家から見つかった、武家女性の衣服の中の一領です。鹿の子絞りで裾から肩へと立ち昇るように表された立木模様は、インド更紗のデザインに見られる「生命の樹」が起源。桐樹に住まうといわれる鳳凰を刺繍し、吉祥性にあふれたデザインです。

紅を濃く染めた小袖は武家や宮廷のお姫様しか用いられない高級品。もともと振袖でしたが、袖を切つて既婚女性用に仕立て替えられたあとが見られます。

(小山弓弦葉)

平成館 考古展示室

奈良・大峯山の祈りのかたち

テーマ展示

「山岳信仰」に用いられた品々

2010年12月7日(火)～6月26日(日)

古来、山は信仰の対象でしたが、奈良時代以降、神聖な山に登って修行して悟りを開こうとする人々が現れました。そうしたなかで、平安時代の奈良県大峯山頂では、屋外で大規模な護摩を焚き、そこに仏具を投げ込む儀礼が行われていました。また、蔵王権現という仏が生み出され、その姿を描いた鏡像が多数奉納されました。ほかに子守三所権現、吉野曼荼羅を描いた鏡像も出土しており、神仏習合の色合いの強いものであったことがわかります。

(望月幹夫)

◎銅板鑄出磨王権現像
奈良県天川村大峯山頂遺跡出土
平安時代・10～12世紀 奈良・大峯山寺
勇壮な線描磨王権現像



今年も桜まつり開催！

博物館でお花見を

3月23日(水)～4月17日(日)



●花下遊楽図屏風 狩野長信筆 安土桃山～江戸時代・17世紀
桜の下で舞い踊り、宴を楽しむ様子がいきいきと描かれます
※3月23日(水)～4月17日(日)本館2室 国宝室で展示

桜花爛漫のこの時期、上野の山は大変な賑わいですが、静かにお花見を楽しみたい方には東京国立博物館が最適です。桜といってもソメイヨシノだけではありません。正門を入ると桜色の噴水のようなヨシノシダレがお迎えます。本館北側の庭園にはミカドヨシノ、オオシマザクラ、エドヒガシシダレなどさまざまな種類の桜があります。法隆寺宝物館の近くにあるレモンイエローの花をつけるギョイコウザクラも見逃せません。

お茶会や特設のカフェでひと休ましたなら、ぜひ本館展示室をご覧ください。桜を主題にした作品が咲き競っています。人々が昔から、どれほど桜に愛着を持って来たかが伝わってくることでしょう。なかでも国宝の花下遊楽図屏風は、十七世紀の花見のようすを描いたもの。楽器をかなで歌い、舞い、かたわらでは宴の準備がなされています。

(伊藤信二)



吉野山蒔絵見台 江戸時代・18世紀
古くから桜の名所として有名な奈良の吉野山を蒔絵で表した書見台です
※3月15日(火)～6月5日(日) 本館 12室で展示



振袖 染分縮緬地枝垂桜菊短冊模様
江戸時代・18世紀
大胆に染め分けた振袖の下からは梅と菊、上からは枝垂桜が枝をのばしています
※2月15日(火)～4月17日(日)
本館10室で展示



関連事業(予定)

桜セミナー「桜を詠む」事前申込制

俳人正木ゆう子氏をお招きし、俳句を詠むためのエッセンスをお話していただきます。

講師：正木ゆう子氏

日時：4月2日(土)13:30～15:00(13:00開場)

会場：大講堂

定員：380名(事前申込制)

聴講料：無料(ただし、当日の入館料は必要)

申込方法：往復はがきの「往信用裏面」に郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号・聴講を希望する講演会の日付「返信用表面」に郵便番号・住所・氏名を明記して下記までお申し込みください。(1枚の往復はがきで2名様までの申し込み可。2名の場合はそれぞれの氏名を必ず明記してください。)

申込締切：3月18日(金)必着

庭園茶室と満開のオオシマザクラ



申込先：〒110-8712台東区上野公園13-9 東京国立博物館教育講座室「桜セミナー」係

※応募者多数の場合は、抽選のうえ結果をご連絡いたします。

お問合せ：TEL 教育講座室03-3822-1111(代表)

ボランティアによるガイドツアー「東博桜めぐり」

当館前庭および北側庭園の桜樹と桜にちなんだ展示作品の簡単な解説を行います(庭園内の桜の解説は、荒天で庭園開放が中止の場合は行いません)。

日程：3月23日(水)、24日(木)、27日(日)、30日(水)、31日(木)、4月3日(日)、6日(水)、7日(木)、10日(日)、13日(水)、14日(木)、17日(日)の12日間

時間：11:00～、15:00～ 各45分間

集合場所：本館1階エントランスホール

当館ボランティアによる応挙館茶会「花見で一服」

当館ボランティアが北側庭園内の茶室応挙館で抹茶をお出しいたします。特定流派の実施ではなく、呈茶式で行います。どなたでもご参加いただけます。

日程：3月26日(土)

時間：12:00～15:00ごろ(25分ごとに入替え制、定員に達した時点で終了)

場所：庭園内茶室 応挙館(直接お越しください)

定員：先着順300名 参加費：500円

※荒天により庭園開放が中止の場合は、平成館ラウンジにお越しください。

このほか、研究員による列伝解説、桜スタンプラリー、桜コンサート、特設カフェなどを予定しております。詳細は、東京国立博物館ニュース4・5月号、および東京国立博物館ホームページなどでお知らせします。

右：ヨシノシダレと東京国立博物館本館
下：桜の下にはカフェも出店します



春の庭園開放は3月12日(土)～4月17日(日)です

PART
1 知る楽しみ、学ぶ喜び
講座・講演会・解説

講演会

「仏像の子どもたち」

「子どもの身体性」をキーワードとして美術解剖学という視点から仏像に迫ります。

日時:2月5日(土) 13:30~15:00

講師:布施英利(東京芸術大学美術学部准教授)

「中国古代の碑帖に関する研究と鑑定方法について
～自らの経験をふまえて～」(9ページ参照)

東京国立博物館と台東区立書道博物館との連携企画「拓本とその流転」(3月15日~5月15日)に関連した講演会です。

日時:3月19日(土) 13:30~15:00

講師:林業強氏(香港中文大学文物館館長) ※逐次通訳付き

後援:書学書道史学会

「クリンタンの祈り ミサとオラショ」(8ページ参照)

特集陳列「クリンタンの祈り—ミサとオラショ—」(3月15日~4月24日)に関連して、クリンタン音楽研究の第一人者である皆川氏にお話を伺います。

日時:3月26日(土) 13:30~15:00

講師:皆川達夫(立教大学名誉教授)

※いずれも会場は平成館大講堂、定員:380名(先着順)、聴講無料(ただし、当日の入館料は必要)

見学ツアー

特集陳列「東京国立博物館コレクションの保存と修理」(2月15日<火>~3月13日<日>)に関連して、保存と修理の現場を見学するツアーを実施します。(9ページ参照)

①「石造彫刻の修理現場へ行こう」

一般の方を対象とした、保存と修理についての解説および石造彫刻修理所の見学ツアーを行います。

対象:一般

日時:2月24日(木) 13:30~15:40

会場:特別2室、石造彫刻修理所 定員:30名(事前申込制)

②「保存と修理の現場へ行こう」

一般の方を対象とした、文化財の保存と修理についての解説および修理室等の見学ツアーを行います。今回は、刀剣修理や書画等の修理、目に見えない内部構造を知るためのX線調査等の現場をご案内します。

対象:一般

日時:第1回 3月10日(木) 13:30~16:10

第2回 3月11日(金) 13:30~16:10

第1回・2回とも内容は同じです

会場:修理室、X線調査室等 定員:各回40名(事前申込制)

申込方法:上記ツアー①・②いずれか一方にのみご応募いただけます。往復はがきまたは電子メールで希望日、郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を明記の上、お申込みください。

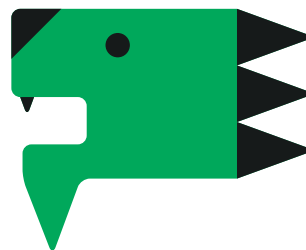
※1枚のはがきで、1人1回分のみ申込可能。

※応募多数の場合は抽選いたします。

締切:ツアー①2月11日(金)必着 ツアー②2月25日(金)必着

申込先:〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 東京国立博物館教育講座室「見学ツアー」係 edu@tnm.jp

教育普及
事業!!



みどりのライオン

みんなで楽しむ教育スペース

EDUCATION CENTER 教学中心 교육센터

列品解説

東京国立博物館の研究員による展示解説です。

「鹿児島県広田遺跡の貝製品」

日時:2月1日(火) 14:00~14:30

場所:平成館考古展示室

講師:品川欣也(工芸・考古室研究員)

オオツタノハやイモガイなどで作られた南の島の貝製装身具の魅力についてお話します。

「与謝蕪村筆「蘭亭曲水図屏風」について」

日時:2月8日(火) 14:00~14:30 場所:本館7室

講師:大橋美織(絵画・彫刻室研究員)

中国東晋時代、蘭亭において行われたいにしへの雅会を、蕪村がどのように絵画化したのかについてお話します。

「古代九州の経塚」(9ページ参照)

日時:2月22日(火) 14:00~14:30

場所:平成館企画展示室

講師:望月幹夫(特任研究員)

特集陳列「古代九州の経塚—北部九州を中心に—」を紹介いたします。

「雛人形の歴史」(8ページ参照)

日時:3月1日(火) 14:00~14:30 場所:本館14室

講師:小山弓弦葉(特別展室主任研究員)

江戸時代の雛様をご覧いただきながら、雛祭りに人形が飾られるようになった歴史を概説します。

「考古資料の保存と修理」(9ページ参照)

日時:3月8日(火) 14:00~14:30 場所:本館特別2室

講師:日高慎(保存修復室主任研究員)

特集陳列「東京国立博物館コレクションの保存と修理」に展示されている考古資料について紹介します。

「クリンタンの祈り」(8ページ参照)

日時:3月15日(火) 14:00~14:30 場所:本館16室

講師:神辺知加(教育講座室主任研究員)

キリスト教が受容されていた16世紀後半の音楽を中心にお話します。

「拓本とその流転」(9ページ参照)

日時:3月29日(火) 14:00~14:30 場所:平成館企画展示室

講師:富田淳(調査研究課長)

特集陳列「拓本とその流転」について紹介します。



蘭亭曲水図屏風(部分)
与謝蕪村筆
江戸時代・明和3年(1766)



立雛 江戸時代・18世紀

*申込みに際していただいた個人情報につきましては、該当事業にのみ使用し、終了後は速やかに破棄します。

PART
2

五感を使った美術体験 ワークショップ

※当落に関らず連絡いたします。実施日の3日前までに受講可否の連絡がない場合は、通信トラブルの可能性もありますので、教育普及室に電話でお問い合わせください。

おとなのためのワークショップ

「春のもようのお皿作り」

梅や桜の季節にちなんだ作品が多く展示されている3月の博物館で、春の訪れを感じてみませんか？ 満開の花、開こうとする蕾、花びらの舞い散る風情に魅せられた日本人は、古くから絵画、染織、やきものなどさまざまな作品に春の花の姿をあらわしてきました。展示作品をじっくりと見て、作品や伝統的なもようをヒントに、展示室でみつけた春をお皿にデザインしてみましょう。



日時：①3月12日(土) 13:00～15:30
②3月13日(日) 13:00～15:30

場所：平成館小講堂

対象：一般(高校生以上)

定員：各回20名(応募者多数の場合は抽選。一度の申込で2名までお申し込みいただけます)

参加費：無料(ただし、当日の入館料は必要です)

申込方法：往復はがき・FAX・電子メールのいずれかで ①参加者全員の氏名・ふりがな ②代表者の郵便番号・住所 ③代表者の電話番号・FAX番号 ④参加希望日を記入の上、下記申込先へお送りください。

申込先：〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 東京国立博物館 教育普及室「春のお皿」係

FAX: 03-3822-3010 電子メール: edu@tnm.jp(件名に「〇月〇日(希望日)春のお皿」とご記入ください)

締切：①②ともに2月25日(金) 必着

※2名までのご応募の場合、代表者にご連絡いたします。

※制作には、絵付け用のサインペンを使用します。

※作品は後日、焼成後のお渡しとなります。(ご来館のうえでのお渡し、もしくは着払いでの発送のどちらかをワークショップ当日選んで下さい)

PART
3

あなたの鑑賞をサポート ボランティアによる事業

平成22年度 東京芸術大学学生ボランティアによる 制作工程模型展示

しっくいこんじき

悉皆金色—阿弥陀如来像ができるまで

期間：1月2日(日)～4月3日(日)

展示：本館1階20室 みどりのライオン

描かれた仏様の全身が金色に輝くさまを、「悉皆金色」といいます。これは、金泥を塗った上にさらに細く切った金箔で細かい文様をあらわして表現します。当館で所蔵する「阿弥陀如来像(1月2日～2月6日まで本館3室で展示)」を題材として、悉皆金色の効果がどのような技法を使って表現されるのか、工程を5段階に分けた模型を展示いたします。平成20年度「裏彩色」、平成21年度「截金」に続く第三弾となる絵画の制作工程模型で、「悉皆金色」の表現がどのような工程を経て作られたのか展示室でご覧頂ければと思います。また使用した材料や道具類も合わせて展示しますので、この機会に仏画制作のしくみをご理解いただければ幸いです。制作者によるギャラリートークも予定されていますので楽しみに。

◆制作工程模型展示「悉皆金色—阿弥陀如来像ができるまで」

2011年1月2日(日)～4月3日(日) 本館20室 みどりのライオン

◆ギャラリートーク「悉皆金色」

実施日時：2月2日(水)、11日(金・祝)、17日(木)、3月2日(水)、13日(日)、17日(木) 15:30～16:00

集合場所：本館1階エントランス

解説場所：本館20室

解説：武田裕子(東京芸術大学 文化財保存学専攻 保存修復日本画)



金泥と膠を指で練ります



金泥は何度も薄く塗り重ねます



完成するとガラス張りになるエレベータ。二方向に出入り口があり、すべての階に停まります。

これまで、半階ずつ階段で上っていた東洋館では、近道もむずかしく、特に車椅子をご利用のお客様には不便をおかけしました。リニューアル後は、新しく設置される地下の展示室から最上階まで、このエレベータで気軽に行き来できるようになります。三月までに工事は完了しますが、館内環境が安定するまで一年以上かかります。その間に、具体的な展示手法を検討し、展示のための道具などを製作しなければなりません。

(白井克也)

エレベータの工事が
進んでいます

展示の方針や手法、展示ケース、照明器具などの検討を進めている間に、東洋館の耐震改修工事は着々と進んでいます。地震に強い建物にすることはもちろんですが、展示を観覧しやすくするためのエレベータの設置工事も進んできました。

東洋館
リニューアルオープンへの道

第5回



イベント開催のお知らせ

◆東京・春・音楽祭 ―東京のオペラの森 2011―

―昨年、昨年に引き続き「東博でバッハ vol.7～10」をお届けします

①ミュージアム・コンサート

東博でバッハ vol.7 田崎悦子(ピアノ)

日時: 3月18日(金) 開演19:00 開場18:15

会場: 東京国立博物館 平成館ラウンジ

曲目: J.S. バッハ: パルティータ 第6番 ホ短調 BWV830 他

②ミュージアム・コンサート

東博でバッハ vol.8 福田進一(ギター)

日時: 3月24日(木) 開演19:00 開場18:30

会場: 東京国立博物館 法隆寺宝物館エントランスホール

曲目: J.S. バッハ(福田進一編): シャコンヌ 他

③ミュージアム・コンサート

東博でバッハ vol.9 中野振一郎(チェンバロ)

日時: 3月27日(日) 開演14:00 開場13:15

会場: 東京国立博物館 平成館ラウンジ

曲目: J.S. バッハ: パルティータ 第4番 ニ長調 BWV828 他

④ミュージアム・コンサート

東博でバッハ vol.10 横坂 源(チェロ)

日時: 3月31日(木) 開演19:00 開場18:30

会場: 東京国立博物館 法隆寺宝物館エントランスホール

曲目: J.S. バッハ: 《無伴奏チェロ組曲》より 組曲第1番 ト長調 BWV1007 他

チケット料金 各3,000円(全席自由)

主催: 東京・春・音楽祭実行委員会

共催: 東京国立博物館

お問合せ: 東京・春・音楽祭実行委員会 TEL 03-3296-0600

URL: <http://www.tokyo-harusai.com/>

※「東京・春・音楽祭 ―東京のオペラの森2011―」のチケットは、東京・春・音楽祭公式ホームページ、東京文化会館チケットサービス他にて販売

◆総合文化展音声ガイド「とーはくナビ」はじまりました

3月31日(木)まで、総合文化展のガイド、「とーはくナビ」を実施いたします。これは本館エントランスでスマートフォンを無償で貸し出し、観覧者の位置に連動して自動的に画像と音声でガイドが流れるものです。初めての

「とーはく」体験をより充実したものにすることを意図しており、興味関心と観覧予定時間に応じてお好みのコースを選択することができます。1月からリニューアルした本館12室・13室・17室では、作品により親しんでいただけるようなコンテンツもご用意いたしました。どうぞご利用ください。

◆東博アプリ リリースしました

1月20日(木)に、東博のiPhone アプリが2つリリースされました。

ひとつは「東京国立博物館 法隆寺宝物館30分ナビ」。豊富なイラストやアニメーションを使って、宝物館の鑑賞の手助けをするプログラムです。

もうひとつは、当館のウェブサイトでも公開しているe国宝のアプリです。国立博物館4館の国宝、重要文化財の画像をタッチパネルで自由に拡大したり、スクロールさせたり、スマートフォンならではの楽しみを満喫できるプログラムです。

いずれも、ご利用にはiPhone(アイフォン)、iPod touch(アイポッドタッチ)が必要です。アップルのApp Storeから、無料でダウンロードできます。



e国宝 分野一覧の画面

◆カード決済サービスを開始しました

当館では、多様化するお客様のニーズにお応えするため、1月2日(日)から正門チケット販売窓口において、クレジットカード決済サービス(Visa、Master Card、JCB、AMEX、Diners、DISCOVER)と電子マネー(iD、Suica、銀聯)を導入しました。

◆特別展「写楽」ご招待券プレゼント

本誌4ページで紹介した特別展「写楽」(2011年4月5日(火)～5月15日(日))のご招待券を、抽選で10組20名様にプレゼントします。締切は3月18日(金)必着。

※プレゼントの応募方法

はがきに住所、氏名(ふりがな)、性別、年齢、職業、ならびにこの号で一番面白かった企画をご記入のうえ、下記までお送りください。発表は発送をもって替えさせていただきます。

〒110-8712 台東区上野公園13-9 東京国立博物館 広報室
「ニュース2・3月号」プレゼント係



◆東京国立博物館賛助会員募集のご案内

東京国立博物館では賛助会員制度を設け、当館の活動を幅広くご支援いただいております。賛助会員よりいただいた会費は、文化財の購入・修理、調査研究・総合文化展・施設整備等の充実にあてております。どうか賛助会の趣旨にご理解ご賛同いただき、ご入会くださいますようお願い申し上げます。

入会日より1年(入会月の翌年同月末日まで)有効。賛助会員には、特別会員と維持会員との2種類があります。

年会費

特別会員 100万円以上

維持会員 法人 20万円
個人 5万円

主な特典

- 特別展の内覧会にご招待
- 東京国立博物館ニュースの送付

*賛助会員のお申し込みは随時受け付けています。

*お問い合わせ

東京国立博物館総務部 賛助会担当
TEL 03-3822-1111 (代)

東京国立博物館賛助会員 2010年12月18日現在

特別会員

日本電設工業株式会社 様
株式会社 コア 様
株式会社 精養軒 様
大日本印刷株式会社 様
毎日新聞社 様
株式会社 大林組 様
朝日新聞社 様
株式会社 ホテルオークラエンタープライズ 様
株式会社 ミロク情報サービス 様
読売新聞社 様
三菱商事株式会社 様
凸版印刷株式会社 様
ブルガリ ジャパン株式会社 様
財団法人 東芝国際交流財団 様
日本写真印刷株式会社 様
日本ロレックス株式会社 様

維持会員

木村 則子 様
早乙女 節子 様
伊藤 信彦 様
井上 萬里子 様
篠内 匡人 様
服部 禮次郎 様
岩沢 重美 様
高田 朝子 様
齋藤 京子 様
齋藤 邦裕 様
和田 喜美子 様
佐々木 芳絵 様
藤原 紀男 様
中川 俊光 様
関谷 徳衛 様
高橋 守 様
小澤 桂一 様
上久保のり子 様
櫛田 良豊 様
長谷川 英樹 様
池田 孝一 様
木村 剛様
観世 あすか 様
星 瑩 尚 様
久保 順子 様
渡辺 章 様
福田 哲行 様
帖佐 誠 様
飯岡 雄一 様
峯村 協成 様
牧美也子 様
高瀬 正樹 様
坂井 俊彦 様
寺浦 信之 様
高木 美華子 様
古屋 光夫 様
根田 穂美子 様
松本 澄子 様
是常 博 様
上野 孝一 様
北山 喜立 様
山田 泰子 様
田村 久雄 様
高橋 徹 様
柴田 陸子 様
絹村 安代 様
高橋 良守 様
岡田 博子 様
臼井 生三 様
津久井 秀郎 様
川澄 祐勝 様
神通 豊 様
永久 幸範 様
五十嵐 良和 様
石川 公子 様
池田 慶子 様
青山 千代 様
永田 実香 様
西岡 康宏 様
友景 紀子 様
東野 治之 様
辻 泰二 様
高木 聖鶴 様
竹下 佳宏 様
松原 聡 様
野澤 智子 様
吉田 幸弘 様
野崎 弘 様
坂田 浩一 様
池谷 正夫 様
脇 素一郎 様
秦 芳彦 様
杉原 健 様
木谷 駿二郎 様
高梨 兵左衛門 様
渡久地 ツル子 様
汐崎 浩正 様
堤 勝代 様
平井 千恵子 様
高谷 光宏 様
高山 道夫 様
高橋 静雄 様
田中 千秋 様
小西 暉也 様
澁谷 洋志 様
清川 勉 様
山下 照夫 様
仙石 哲朗 様
中井 伸行 様
高見 康雄 様
田中 望 様
三井 速雄 様
坂詰 貴司 様
吉田 靖 様
松本 雅彦 様
片山 正紀 様

維持会員 団体

東京電力株式会社 様
TBS 様
株式会社 三冷社 様
株式会社 東京美術 様
株式会社 鶴屋吉信 様
株式会社 安井建築設計事務所 様
株式会社 ナガホリ 様
松本建設株式会社 様
株式会社 スタイルカフェ・ドット・ネット 様
株式会社 古美術数本 様
謙慎書道会 様
社団法人 全国学校栄養士協議会 様
近代書道研究所 様
日本畜産興業株式会社 様
株式会社 東京書芸館 様
インフォコム株式会社 様

学校法人 大勝院学園 様
有限会社 システム設計 様
株式会社 小西美術工芸 様
公和図書株式会社 様
有限会社 ギャラリー・竹柳堂 様
株式会社 育仲社 様
株式会社 モリサワ 様

会田 健一 様
桐畑 政義 様
相良 多恵子 様
熊谷 勝昌 様
眞中 富士男 様
鈴木 徹 様
今里 美幸 様
櫻井 恵 様
加藤孝明 様
伊佐 健二 様
福井 一夫 様
軽部 由香 様
阿部 明美 様
東京ロータリークラブ 有志 様
酒井 弘文 様
木越 純 様
井上 保 様
田中 信 様
岡 靖子 様
古川 晴紀 様

(ほか44名3社、順不同)

◆「トールハク?」キャンペーン
ポスタープレゼント

東京国立博物館は、2011年1月2日(日)の本館リニューアルオープンにともない、東博「トールハク」キャンペーンを実施しています。イメージポスターに女優の貫地谷しほりさんを起用し、トールハクを知らない方、来たことがない方、特別展だけを見て帰ってしまった方々、「わ

くわく」「どきどき」そして「リラックス」できるトールハクの過ごし方を具体的に提案します。このキャンペーンポスターを本誌の読者の方20名様にプレゼント。2枚をセットでお送りします。

はがきに、住所、氏名(ふりがな)、性別、年齢、職業、希望するポスターの番号(応募状況によっては、ご希望に添えないことがあります)をご記入のうえ、左記までお送りください。発表は発送をもって替えさせていただきます。締切は2月20日必着。



①



②



③



④

左記までお送りください。発表は発送をもって替えさせていただきます。締切は2月20日必着。

◆TNM&TOPPANミュージアム
シアター上演スケジュール

1月2日(日)〜3月27日(日)の金・土・日・祝日

上演開始	洛中洛外図屏風 舟木本	江戸城一本丸御殿と天守
10時	■	
11時		■
12時	■	
14時		■
15時	■	
16時		■

※各回30名。各回ごとに予約が必要です。
上演開始の10分前までに
本館1階エントランスにて受付

【作品紹介】

VR作品「洛中洛外図屏風 舟木本」

「洛中洛外図屏風(舟木本)」(重要文化財)を、高精細画像を用いたVRで再現し、屏風に描かれた名所や人々の姿をご覧いただきます。

◎上演テーマのご案内

1月 京の政／京の芸能／かぶき
2月 京の名所今昔／京の信仰
3月 京の風物詩／京の商い

【新作】

VR作品「江戸城一本丸御殿と天守」

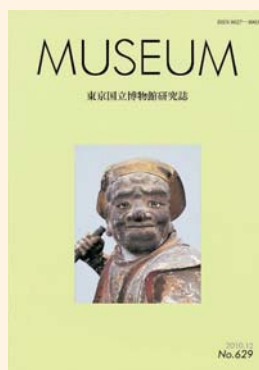
豪華絢爛な本丸御殿や焼失した寛永の天守をはじめ、現存しない江戸城の当時の様子を再現し、実際にその場にいる様な感覚でご覧いただけます。

◆MUSEUM 629号

(2010年12月15日発行の掲載論文)

①「調査報告」永平寺の中世彫刻「浅見龍介」当館東洋室長

②「墨田区・弘福寺鉄牛道機倚像と祥雲元慶」塩澤寛樹(日本橋学園大学教授)



◆国立博物館の展示案内

〈京都国立博物館〉

法然上人八百回忌 特別展覧会「法然 生涯と美術」2011年3月26日(土)〜5月8日(日)

〈奈良国立博物館〉

特別陳列「お水取り」2月5日(土)〜3月14日(月)

〈九州国立博物館〉

特別展「黄葉—OBAKU」3月15日(火)〜5月22日(日)

東京国立博物館友の会&パスポート

友の会 年会費 1万円 発行日から1年間有効

特典 東京・京都・奈良・九州国立博物館4館の総合文化展・平常展は何度でもご覧いただけます。特別展に関しては、観覧券を12枚配布。そのほか、本誌の定期郵送などさまざまな特典があります

パスポート 一般 4,000円 学生 2,500円

発行日から1年間有効

特典 東京・京都・奈良・九州国立博物館4館の総合文化展・平常展は何度でも、お好きな6つの特別展を1回ずつ計6回までご覧いただけます

※建物の改修等のため、京都国立博物館・奈良国立博物館の平常展示館、東京国立博物館東洋館など一部展示館を閉館しています。

◆お申し込みは当館窓口、郵便振替または当館ホームページで〈郵便振替でのお申し込み〉

※振替用紙には郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号・職業・年齢・性別・メールアドレスを楷書でご記入ください

※振替用紙の半券が領収書になります。会員証、パスポートが届くまで保管しておいてください

※振替手数料はお客様の負担となります

※ご入金確認日より会員証、パスポートがお手元に届くまで2週間程かかります

友の会

加入者名(振替先)東京国立博物館友の会
口座番号00160-6-406616

パスポート

加入者名(振替先)東京国立博物館パスポート
口座番号00140-1-668060

※振替用紙には申込区分(一般か学生)、学生の場合は、生徒手帳か学生証のコピーを郵送またはFAXでお送りください

◆お問合せ

TEL 03-3822-1111(代) 友の会・パスポート担当
FAX 03-3821-9680

東京国立博物館ニュース定期郵送のご案内

本誌の定期購読をご希望の方は、年間(6冊分)1,000円の送料・事務費のご負担でご自宅にお届けします

◆お申し込みは郵便振替で

加入者名(振替先)東京国立博物館ニュース
口座番号 00100-2-388101

※振替用紙には郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を楷書でご記入ください

※振替用紙の半券が送料の領収書になります。1年間保管しておいてください

※振替手数料はお客様のご負担となります

※次号より送付ご希望の場合、締切は2011年3月10日です

東京国立博物館メールマガジンのご案内

特別展・各種催し・展示替・ウェブ更新などの情報をいち早くお届けします ※ご登録は <http://www.tnm.jp/> から

東京国立博物館利用案内

開館時間 9:30〜17:00

2011年4月〜12月までの特別展開催期間中の金曜日は20:00まで、2011年4月〜9月の土日祝休日は18:00まで開館(入館は閉館の30分前まで)。

休館日

原則として月曜日(祝日・休日にあたる場合は開館、翌火曜日休館)、年末年始。

総合文化展観覧料金

一般600(500)円、大学生400(300)円

※()内は20名以上の団体料金

※障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に障害者手帳などをご提示ください

※満70歳以上、高校生以下および18歳未満の方の総合文化展観覧は無料です。入館の際に年齢のわかるもの(生徒手帳、健康保険証、運転免許証など)をご提示ください

※お申し込みに際してご提供いただいた個人情報は、当該の目的にのみ使用させていただきます。当館は個人情報に関する法令を遵守し、適正な管理・利用と保障に万全を尽くします

[16ページのカレンダー内 *1〜*6]

*1 詳細は本誌12ページをご覧ください

*2 特別展「仏教伝来の道 平山郁夫と文化財保護」関連事業、事前申込制、詳細は本誌3ページまたは当館ホームページをご覧ください

*3 特別展「仏教伝来の道 平山郁夫と文化財保護」関連事業、事前申込制、詳細は本誌2ページをご覧ください

*4 詳細は本誌13ページをご覧ください

*5 詳細は本誌14ページをご覧ください















*6 整理券配布はございません。会場となる庭園内茶室応接館へ直接お越しください。詳細は本誌11ページをご覧ください

2011年
2月





東京国立博物館2011年2月・3月の展示・催し物

2011年
3月

1 TUE	 15:00 列品解説 「鹿児島県広田遺跡の貝製品」14:00 平成館考古展示室
2 WED	 14:00  「悉皆金色」15:30 本館20室
3 THU	 14:00
4 FRI	 15:00 
5 SAT	 11:00  13:30  14:00  14:30  15:00  月例講演会 「仏像の子どもたち」13:30 平成館大講堂*1
6 SUN	 13:30  14:00  14:30 
7 MON	休館日
8 TUE	列品解説 「与謝蕪村筆「蘭亭曲水図屏風」について」14:00 本館7室 講演会 「薬師寺僧侶が語る大唐西域壁画」15:00 平成館大講堂*2
9 WED	 14:30
10 THU	 14:00  14:00  14:30
11 FRI	 14:30  「悉皆金色」15:30 本館20室 
12 SAT	 14:00 
13 SUN	 13:00  14:00 
14 MON	休館日
15 TUE	 15:00
16 WED	
17 THU	 14:00  14:30  「悉皆金色」15:30 本館20室
18 FRI	 15:00 
19 SAT	 11:00(手話通訳付き)  13:30  14:00  14:30  15:00  記念講演会 「仏教伝来の道をたどる」13:30 平成館大講堂*3
20 SUN	 12:30, 14:00 
21 MON	休館日
22 TUE	列品解説 「古代九州の経塚」14:00 平成館企画展示室 講演会 「薬師寺僧侶が語る大唐西域壁画」15:00 平成館大講堂*2
23 WED	 14:00  14:30
24 THU	 13:00  14:00  14:30 見学ツアー「石造彫刻の修理現場へ行こう」13:30 特別2室*1
25 FRI	 14:30 
26 SAT	 14:00 
27 SUN	 11:00  13:00  14:00  14:00 
28 MON	休館日

- =ボランティアによる本館ハイライトツアー、集合場所：本館1階エントランス
=ボランティアによる浮世絵展示ガイド、集合場所：本館1階エントランス
=ボランティアによる陶磁エリアガイド、集合場所：本館1階エントランス
=ボランティアによる彫刻ガイド、集合場所：本館1階エントランス
=ボランティアによる樹木ツアー、集合場所：本館1階エントランス
=ボランティアによる考古展示室ガイド、集合場所：平成館考古展示室入口
=ボランティアによる法隆寺宝物館ガイド、集合場所：法隆寺宝物館1階エントランス
=ボランティアによる英語ガイド(本館ハイライト)、集合場所：本館1階エントランス
=ボランティアによるたてももの散歩ツアー、集合場所：本館1階エントランス
=ボランティアによる茶会、集合場所：本館1階エントランス(一般及び大学生は参加費500円、先着20名[2/20九条館]、30名[3/20応挙館]、開始30分前に集合場所で整理券配布)
=ボランティアによる庭園茶室ツアー、集合場所：本館1階エントランス(先着20名、開始30分前に集合場所で整理券配布)
=ボランティアによるガイドツアー「東博桜めぐり」、集合場所：本館1階エントランス、詳細は本誌11ページをご覧ください
=ボランティアによるこどもたちのアートスタジオ(勾玉作りコース、事前予約制、申込は締め切りしました)
=芸大ボランティアによるギャラリートーク、詳細は本誌13ページをご覧ください

1 TUE	 15:00 列品解説 「雛人形の歴史」14:00 本館14室
2 WED	 14:00  「悉皆金色」15:30 本館20室
3 THU	 14:00
4 FRI	 15:00 
5 SAT	 11:00  13:30  14:00  14:30  15:00 
6 SUN	 14:00  14:30  「仏教伝来の道 平山郁夫と文化財保護」
7 MON	休館日
8 TUE	列品解説 「考古資料の保存と修理」14:00 本館特別2室
9 WED	 14:30
10 THU	 14:00  14:00  14:30 見学ツアー「保存と修理の現場へ行こう」13:30 修理室*1
11 FRI	 14:30  見学ツアー「保存と修理の現場へ行こう」13:30 修理室*1
12 SAT	 14:00  14:30  おとなのためのワークショップ「春のもようのお皿作り」13:00 平成館小講堂*4 春の庭園開放
13 SUN	 13:00  14:00  「悉皆金色」15:30 本館20室  おとなのためのワークショップ「春のもようのお皿作り」13:00 平成館小講堂*4
14 MON	休館日
15 TUE	 15:00 列品解説 「キリシタンの祈り」14:00 本館16室
16 WED	
17 THU	 14:00  14:30  「悉皆金色」15:30 本館20室
18 FRI	 15:00  ミュージアム・コンサート 東博でバッハ vol.7 田崎悦子(ピアノ) 19:00 平成館ラウンジ*5
19 SAT	 11:00(手話通訳付き)  13:30  14:00  15:00  講演会 「中国古代の碑帖に関する研究と鑑定方法について～自らの経験をふまえて～」13:30 平成館大講堂*1
20 SUN	 12:30, 14:00  14:00 
21 MON	
22 TUE	休館日
23 WED	 11:00, 15:00  14:30 博物館でお花見を
24 THU	 11:00, 15:00  13:00  14:00  14:30  ミュージアム・コンサート 東博でバッハ vol.8 福田進一(ギター) 19:00 法隆寺宝物館エントランスホール*5
25 FRI	 14:30 
26 SAT	 12:00~*6  14:00  月例講演会 「キリシタンの祈り ミサとオラショ」13:30 平成館大講堂*1
27 SUN	 11:00, 15:00  11:00  13:00  13:30  14:00  ミュージアム・コンサート 東博でバッハ vol.9 中野振一郎(チェンバロ)14:00 平成館ラウンジ*5
28 MON	休館日
29 TUE	 15:00 列品解説 「拓本とその流転」14:00 平成館企画展示室
30 WED	 11:00, 15:00  14:00
31 THU	 11:00, 15:00  14:00  ミュージアム・コンサート 東博でバッハ vol.10 横坂 源(チェロ) 19:00 法隆寺宝物館エントランスホール*5

- =ボランティアによるたんけんマップ春休みツアー、集合場所：本館1階エントランス
=ボランティアによる茶会「花見で一服」(呈茶式)、集合場所：庭園内応挙館(参加費500円、先着300名(12:00～15:00))、詳細は本誌11ページをご覧ください
=黒田記念館開館日、木曜・土曜13:00～16:00
=ミュージアムシアター上映 1/2～3/27「洛中洛外図屏風 舟木本」10:00 12:00 15:00、「江戸城一本丸御殿と天守」11:00 14:00 16:00
集合場所：本館1階エントランス(詳細は本誌15ページをご覧ください)
- *1～*6は、本誌15ページをご参照ください。
*上記の予定は予告なく変更になることがあります。当日の予定はインフォメーションカウンターでご確認ください。
*屋外で実施するツアー・ガイドは雨天の場合中止することがあります。